

第2号では、夏に実施した湯梨浜学園 SSH プログラム

についてご紹介いたします。

## 「海洋の環境保全プロジェクト」

8月2日、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークである岩美町の海域にて、本校の中学1年生が SSH プログラムである「**海洋の環境保全プロジェクト**」を実施しました。

研修前半では、海上での石英斑岩の岩脈を観察するために、カヤックの操作方法を学びました。岩場をくぐり抜けたり、波の動きにあわせてバランスをとったりと最初は苦戦しましたが、すぐに慣れてカヤックのスキルが上達していきました。実地での浸食窪や海岸の浸食過程の学習によって知見を深めることができました。

研修後半では、スノーケリング（シュノーケリング）と海洋生物の観察を行いました。まずは、スノーケリングの仕方について学び、その後、沖合に出て海中に生息するムラサキウニなどの海洋生物の個体数調査を行いました。最近では、沿岸に発生したムラサキウニが海藻を食べ尽くすことから、その駆除を行っていることを学び

ました。海藻を守ることが、サザエやアワビなど他の生態を守ることににつながるなど、生態系の仕組みや保全することの大切さについて理解が深まりました。参加した生徒からは、「**鳥取県**の海はもちろん、**世界の海**がいつまでもきれいな**ままであってほしい**」という感想がありました。その願いを実現するために、今後私たちは何をしていかなければならないのかといった、新たな課題が見つかりました。



本プロジェクトを通して、大地の成り立ちから私たち人間、動植物とのつながりを学ぶことができました。地球資源を恒久的に享受するためにはどうしたらよいのか、気候変動の影響を緩和したり、自然災害の影響を軽減するといった、社会が直面している重要課題への意識と理解を高める機会になったことと思います。



# 「令和6年度生徒研究発表会」

令和6年度SSH生徒研究発表会に、代表団として生徒5名が参加しました。この大会は、全国SSH指定校およびその経験校が、日頃の探究活動の成果をお互いに発表し、交流する場となっています。

本校は「CLIL×SDGsで英語能力の向上とSDGsの理解を深めるためには」というテーマで、高校2年河野向日葵さんが、SDGs17の目標達成まであとわずかと迫ってきている世界の現状について分析し、オンライン英会話という手法を用いて、日本国側と発展途上国側という2つの観点から、SDGsひいては、今後の日本の教育の在り方について考察した研究を発表しました（画像はそのポスター）。



## CLIL×SDGsで英語能力の向上とSDGsの理解を深めるためには

0654 学校法人湯梨浜学園 湯梨浜学園中学校・高等学校 ○○○○

### 1 はじめに

ここ数年、SDGsというフレーズを耳にする機会は多い。SDGsは、私たち人類がこの地球で暮らし続けていくために必要な目標であり、簡単に小さなことから始められるものとして紹介されている。しかしながら日本の2023年度SDGs達成状況は17項目のうち1項目のみ完全に達成しているに過ぎないという事実がある。

### 2 研究の動機

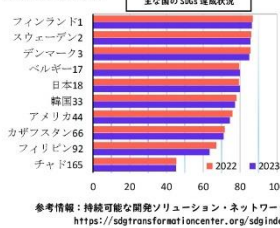
オンライン英会話でSDGsの話題になることがあるが、発展途上国の方ほど、SDGsについて知らないのではないかと感じることを何度も経験した。SDGsについて知らない原因はどこにあるのか、また改善する方法はないかと考え、本研究を進めるに至った。本研究により、SDGs達成の一助となればと願う。

### 3 仮説

- ① オンライン英会話を活用すれば、SDGsについて認知度を高めることができる。
- ② SDGsを題材にすれば、日本にCLILを普及させることができる。

### 4 研究に関わる情報

主な国の2022年、2023年におけるSDGs達成状況は次のとおりである。



各国のSDGs達成度は、相対的に先進国が上位を占め、発展途上国が下位を占めている。オンライン英会話を活用することで、世界の人にSDGsについて知ってもらい認知度を上昇させることができる。また、SDGsについて英語で会話をすることは、\*CLILとして日本人の英語能力も向上させることができる。

\*CLILとは、Content and Language Integrated Learningの略称で内容と言語の統合型学習のこと

本研究を進めるにあたっての先行研究として、実際に愛知県豊橋市立八町小学校の授業視察を行った。このことより、英語イメージ教育（英語以外の教科も英語で）やCLILの必要性を改めて確認した。

### 5 研究方法

- ① \*オンライン英会話の教材としてSDGsに関するトピックを精査して選ぶ。
- ② オンライン英会話後に、選んだ記事の内容、SDGs番号、感じたことを記録する。
- ③ ①、②を1日25分、約2週間継続して行う。
- ④ 結果を考察する。

\*オンライン英会話の対象は、英会話講師であり、一定の教養を備えていると考えている。

### 6 研究結果

各回の英会話の記録は次のとおりである。実施した14人中14人の英会話講師がSDGsを知らなかった。14人の英会話講師の多くは、発展途上国に在住であった。

実施日	SDGs番号	内容	学び・感じたこと
12/23 PM	17	1. 回復力の投資で10年未満の回復が望ましい	投資が世界に広まれば貧困はなくなりそう
12/24 PM	1	米国、世帯所得アップ、貧困率ダウン	世帯所得が高まることで、医療保険の加入率が高まる為、貧困率が上昇すると健康な人が増えそう

実施日	SDGs番号	内容	学び・感じたこと
12/26 PM	4	日本、英語ランキングで過去最低	日本は専ら、英語能力指数の順位が下がっている
12/27 PM	4	東京都、高校授業料全面無償化へ	高校授業料全面無償化で子育て世帯へのサポートにつながるのかについて賛否両論と反対派どちらも一部正しい
12/28 PM	5	ジェンダー平等、2023年の報告書で日本は	日本の女性に男性が持つ権利の79%と知り、驚いた
12/29 PM	6	中国の記者が川の水を飲んできれいだと言った	世の中には飲料水がなかなか手に入らない国があり、日本はとも思われていた
12/30 PM	3	日本式入浴の健康効果	世界に広げられる文化が日本独自の価値になる人が減るのではないか
12/31 PM	7	研究結果：世界の死因トップは公害	公害が死因トップは衝撃的な事実で、改善できれば温暖化緩和にも繋がらそう
1/1 PM	4	ヨルダンの英語教育	ヨルダンでもイメージ教育を受けている
1/2 PM	5	人種差別について	人種差別という言葉の意味をはっきりするべき
1/3 PM	17	SDGs目標達成に向けて私たちができること	SDGsという言葉を知っている人が少ないので、まずは多くの人にSDGsを知ってもらいたい
1/4 PM	16	フィリピンのスラム街と空海の治安	国内でも地域格差があり、低所得層は正しい方法で稼げない
1/6 PM	4	英語教育について	オンライン英会話をもっと世界に広めたい

### 7 考察・結論

発展途上国において、予想以上にSDGsの考え方や内容はもとより、言葉自体があまり知られていない。今回、オンライン英会話を用いて世界の人々のSDGs認知度を向上させることは、被験者がSDGsの知識が乏しかったこともあり、結果的に達成できたことになる。しかしながら、検証結果の可否が主観的判断であり、科学的な根拠になり得ていない。また、先進国の英会話講師と同様の検証を同程度していないことから検証の正確性は低いと言わざるを得ない。SDGsを題材にCLILを普及させることは、被験者は自身のみであるが、英語の学力向上につながったことで可能であると考えられる。この検証結果の可否も主観的判断であり、英語が得意・不得意、英語で会話することが好き・嫌い、SDGsに興味がある・ないなどの条件やデータとして十分な数を取って検証するといった点が不足している。

### 8 今後の展望

オンライン英会話講師だけでなく、もっと多くの人にSDGsの認知度を高めるような発信を検討する。また、知ってもらうだけでなく、CLIL普及に向けて、具体的なたすきかけとその効果を測定するための検証方法の開発、ファクターの選定、数値化が必要である。

### 9 謝辞

下記の方々にご協力いただきました。厚く感謝申し上げます。

豊橋市立八町小学校 教職員一同様  
DMN オンライン英会話 講師様

### 10 参考URL

最新ニュースを英語で学ぼう DMN 英会話  
<https://aikoino.dmn.com/app/daily-news>

持続可能な開発ソリューション・ネットワーク  
<https://sdgtransformai1ncenter.org/sdgindex>

豊橋市立八町小学校  
<https://www.toyohashi-c.ed.jp/haccou-e/>

本校生徒は、2日間を通して、プレゼンテーションスキルや質問に対応するスキルなどの向上が見られました。また、他校の発表からも多くの良い刺激を受けたようです。今後は、学んだことを周りの生徒に還元することを期待しています。



本校では、SSH学校設定科目である「\*課題研究 stage-I」という名称の授業科目において、探究活動に取り組んでおり、その研究成果は校内に掲示するとともに、校外での発表会に積極的に参加しています。

\*課題研究とは、知りたい・分かりたいと思う課題を見つけ、自ら実験や調査を行ってその課題を解決し、結果や結論を他者に伝えるまでを含めた一連の学習形態のことをいう。